



SHUNKEN 2005-11 33-03

駿建

2005年秋期号 Vol.33 No.3 日本大学理工学部建築学科 日本大学短期大学部建設学科

SUPER JURY 2005

芥川文恵

「2005 年度 スーパージュリー」が10月1日(土)に、駿河台校舎1号館 CST ホールで行われた。これは学年・クラスに分断されて行われている設計科目から優秀作品を一堂に集め、横断的に講評会を行うもの。今年で3度目の開催である。全体講評会に先立ち、9月26日(月)～10月1日(土)の1週間、駿河台校舎1号館 CST ギャラリーで展示が行われ、学部1年から大学院1年までの前期課題から選ばれた優秀作品38点の図面や模型が展示された。

スーパージュリーでは展示作品の中から2年と3年の課題21点について、本人による発表とゲストクリティックと非常勤講師による講評会が行われた。講評会に参加していただいたゲストクリティックの方々は、ヨコミゾマコト(aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所)、高橋真奈美(PLANNET WORKS)(敬称略)の2人の建築家。非常勤講師の方々は、榎本弘之、城戸崎和佐、佐藤文、杉千春、山中新太郎、葭内博史(敬称略)の6人の建築家たち。司会を渡辺富雄講師が務めた。CST ホールには大勢の学生が詰めかけ、今回も昨年同様 CCD カメラとビデオカメラを導入し、正面のスクリーンに講評の対象となる図面と模型をリアルタイムで大きく映し出した。それにより、後ろの席からも緊迫した講評会の様子が十分に感じられ、迫力のある講評会を行うことに成功した。

講評会後は9号館1階の食堂に場所を移し、懇親会が行われ、各参加建築家からスーパージュリー参加者に賞



講評会風景

が贈られた。各賞にはそれぞれの建築家の名前が付けられ、激論の末に本人たちが自ら選び出した。以下は、その受賞者発表の際に述べられた、入賞者へに対する各建築家のコメントである。

●ヨコミゾマコト賞：土屋敬祐(2年)

建築の評価や答えはひとつだけではなく、見る人によっていろいろなことを言われます。土屋君はnLDKからの脱却というまだ解決されていない住宅の問題に課題からはずれて果敢にトライしたのは評価できる。この後が楽しみです。

●高橋真奈美賞：佐藤稔也(2年)

ちょっとオブジェのような案ではあるが、街のスケールも考えられているし、プレゼンも良かったです。ただ、ひとつのアイデアで成功はしていますがそういうことだけではなく、実物を作るときはアイデアだけでは自分の思ったようにいかないのでディテールまでやることを忘れないでください。

●榎本弘之賞：横井創馬(3年)

非常にうまい。センスも良くまとまっていて完成度の高いことに対して賞をあげたい。ただし、器用にまとまってその考え方に固まり満足せずに、どんどん上の段階に上がって欲しい。

●城戸崎和佐賞：滝瀬千紗子(3年)

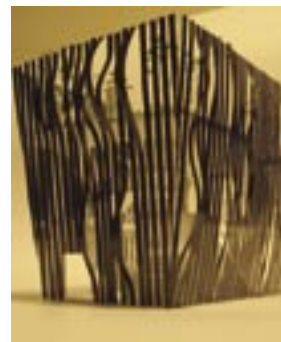
今年で3回目の参加ですが、毎年おバカで元気な子に賞をあげています。滝瀬さんはもうちょっとおバカでいて欲しいかなと。パワーのある案です。パースを書き続



城戸崎和佐賞 滝瀬千紗子



佐藤文賞
春日貴美子



杉千春賞
榎本高章



ヨコミゾマコト賞 土屋敬祐



高橋真奈美賞 佐藤稔也



榎本弘之賞 横井創馬

けたり、自分で最初の案をどんどん変えていけるパワーはこれからも持っていて欲しいです。

●佐藤文賞：春日貴美子（2年）

一学年に300人も学生がいるので受け狙いや、誰もやらないのではと案を作りがちですが、春日さんは敷地を読みとり、プライベート空間をどう作るかをまじめにやっています。そして奇抜ではないけれどもいろいろな提案が含まれています。

●杉千春賞：榎本高章（2年）

パブリックスペースの課題は難しいが、人の動きという単純なアイデアを素直な気持ちで作っていた。かわいらしい人型のプレゼンも良かった。このような視点で建築を作っていければ面白いものを作れそうだ。

●山中新太郎賞：畑中千賀子（3年）

車と居住空間を同時に狭い敷地内にうまく配置できている。その曲がり具合も良い。去年も同じように車の案はあったが単純であったのに対し、畑中さんののはうまくできていた。

●靱内博史賞：珠玖 優（3年）

与条件の敷地は「造成」という行為（建築）がなされ、地形に「水平」が設定されている。世代の罪とも呼べるようなこの状況に楽観的とも思える「水平／垂直の再構築」を重ね、未来に向かおうとしている姿勢を評価する。意識的であるより直感的であることは重要、優れた身体を鍛えている証明。

（あくたがわふみえ・助手）

1年	デザイン基礎	第4課題 空間構成	向井正伸、大野寿文、清水俊介、荒井恵美、池本宏平、近藤和樹、森實幸子、佐藤久子、中村尚志
2年	建築設計II	第1課題 住宅	秋月孝文、春日貴美子、斉藤 亮、土屋敬祐、平岡 舞
		第2課題 パブリックスペース	小柳 祈、佐藤稔也、榎本高章、古澤修一
3年	建築設計IV	第1課題 〈設計計画コース〉 マルチメディアライブラリー	滝口 優、浅岡翔太、滝瀬千紗子、杉山幸一郎
		第1課題 〈企画経営・環境・構造コース〉 まちのライブラリー	小林弘典、田村佳久
		第2課題 〈設計計画コース〉 長者ヶ崎コンプレックス	横井創馬、畑中千賀子、珠玖 優、成田 愛
		第2課題 〈企画経営・環境・構造コース〉 長者ヶ崎セミナーハウス	吉田隼人、瀬川 諭
4年	(旧)設計演習II	都市の変容と再構築	會田達朗十石川直史十原田創一西内雄紀十戸厚史十新井 匠関口 翔十国眼一成小山夏季十近藤枝里十高橋いずみ
M1	建築デザインI	再生	〈今村ユニット〉安藤 營
			〈横河ユニット〉山村一仁
			〈佐藤ユニット〉山田明里
			〈藤江ユニット〉篠原祥子

展示出品者リスト



山中新太郎賞 畑中千賀子



靱内博史賞 珠玖 優



懇親会風景

夏期集中講義 デザインワークショップⅠ

渡辺富雄



8月2日 渡辺ユニット



8月4日 田中ユニット

建築学科の新カリキュラムが施行されて今年で3年目になる。このカリキュラムによって現3年生から環境・構造、設計・計画、企画経営の3コース制がスタートした。デザインワークショップⅠは今年度から新たに設置された科目で、設計・計画コースの学生が受講できる選択科目（1単位）である。デザインワークショップのねらいは、普段の建築設計の授業とは趣の異なるテーマと進め方で、集中的にスタディしてアイデアをまとめたり、協働作業を体験したり、実際のものに触れ、ものづくりを体験することなどで、今年は夏休み最初の8月1日（月）～8日（月）の猛暑の8日間、駿河台校舎5号館の製図室を開放して集中的に行われた。

4つのユニットがそれぞれ別々のテーマ、スケジュールで進められ、8日のファイナルレビューでは、CSTホールに4ユニットの全作品が掲示され、ゲストクリティックとして杉千春氏、田井幹夫氏を迎えて、熱気のもったクリティックが行われた。ユニットマスターの熱意が伝わったのか、参加者も熱心に取り組み、厳しい条件の中でも普段味わえない楽しい一週間を過ごすことができたのではないかなと思う。ユニットマスターの先生方はじめ参加者の皆さん本当にご苦労様でした。あのパワーを次につなげてください。

なお、来年度はデザインワークショップⅡ（選択／1単位）が開講される。

●田中雅美ユニット：参加者 14 名

テーマ「建物の存在力を生かす！」

水道道路に沿いに板状に連なる集合住宅の新たな再生をイメージし、あなたにとって、そして私たちにとって魅力的なスペースを提案してみよう。

【田中雅美先生からのコメント】

ワークショップを考えるにあたり、2つのテーマを選択しました。1つは都市の中にある経年劣化した「既存建物の再生」、もう1つは「グループ設計を経験する」ということです。

具体的には新宿副都心から環状7号線に伸びる水道道路にリニアに立ち並ぶ、中低層の都営住宅の再生を課題としました。建物のサーベイと課題地周辺の模型作成はユニット全体で取り組みました。全長5メートルを超える道路を中心とした課題地周辺の模型は、昼夜1日で作り上げられ、学生諸君の集中力には目を見張るものがありました。その後、4グループに分かれ課題に取り組みましたが、テーマに対する掘り下げ方について各グループで相当活発な検討と議論が行われていました。

ゲストクリティックを招いた講評会では、各グループの掲げた再生イメージは評価されたものの、その具体的な建築デザインレベルの提案が乏しいとの評価が多かったように思います。短期間にグループという枠の中でデザインの提案を実現するのはハードルが高すぎたようでしたが、一週間を通して仲間同士で交わした熱のある議論は、学生諸君にとって記憶に残るものとなったに違いありません。



8月8日 ファイナルレビュー



ユニットマスターとゲストの田井氏、杉氏



田中ユニット

●川口英俊ユニット：参加者 11 名

テーマ：「Improvisation」（即興演奏）

既成の建築物、構造物、工作物、橋、ダムあるいは自然環境などに対してどのような手法をとっても良いから、その「相手」にインプロヴァイズするのに最適な空間・デザインを提案し、全てドローイング（断面）で表現してみよう。

【川口英俊先生からのコメント】

Jazz ミュージシャンのように、他のミュージシャンの音に即座に反応する動作＝「Improvisation」（即興演奏）を試してみた。デザインの「相手」を都市の中から選択し、そして、その「相手」を瞬時に理解しエッセンスを抽出し、いかにして最終的に自分の「音」＝「デザイン」に変換していくかという作業であった。結果のドローイングは、私の期待以上に、おおよそタイプとしての建築の姿を呈してはいなかった。それは何を意味しているかといえば、物事が抱えている目に映らない「事実」を的確に捉え「自分のデザインに変換」することに他ならない。実は、私のユニットの非常に重要なポイントは、「モノの見方」という視野を広げることにあったのである。

各個人が自分自身のデザインの中でインプロヴァイズするだけでなく、ユニット内の学生どうしが意見を言い合い、刺激しあうという文字通りの「Improvisation」が継続的に行われていたように思えてならない。全てのメンバーが驚くほど高い質と理解力と分析力を出し切り、予想以上の成功であったことは非常に嬉しいことであった。

●内田尚宏ユニット：参加者 10 名

テーマ：「～から～への開口部を考える」

川越市「織物市場」の建物開口部を体験・実測しスケッチしてみよう。そして、〇〇～〇〇の開口部（2・3年の授業の課題で提出したものを題材にしても良い）の意味とかたちを考え、限りなく実寸に近いスケールで考え表現してみよう。

【内田尚宏先生からのコメント】

窓や戸に限定せず、外と内をつなぐ建築の重要な部位

として「開口部」を捉えること。それを具体的な場を設定し、具体的に表現することが狙いでした。その手がかりとして、実際の都市（川越）にあるさまざまな開口部を体験・実測したことは参加者にとって、とても有意義なことだったと思います。

作品は、時間不足で消化不良の案が多かった感はありませんが、音を糸口に地上と地下をつなぐ装置として開口部を捉えた瀧口案、収納を一体化させた「厚みのある開口」をコミュニケーションを産むための装置としてショップファサードに取り入れた佐伯案、雨が降ると表情が変わる開口部を、雨宿りするための空間として提案した森案など、優れた案も見られました。

普段の課題とは違った「部分から発想する」という視点を、今後の設計活動に生かしていった欲しいと思います。

●渡辺富雄ユニット：参加者 13 名

テーマ：「Multi-family, multi-style のための空間」

第1回ダイワハウス住宅設計コンペ「21世紀住宅」を通して、3年生でもう一度「住宅」を考え、グループまたは個人でコンペに応募してみよう。

【渡辺富雄先生からのコメント】

ワークショップ最終日が応募締め切りのコンペを通して、多様な家族と多様なスタイルの『住宅』を考えてみようというものであった（これはユニットマスターである渡辺のコンペ応募に対する一つの切り口）。ワークショップの楽しさは、いろいろなユニットが別々のテーマで進め、隣のユニットが何をやっているのか見ながら進めるところにありプロでも難しいテーマであったが、迷った挙げ句のテーマ設定であった。プレゼンテーションを考え、原則2人のグループで行うことにした。最終的には6つのプロジェクトを完成することができた。内容は別としても、一つのアイデアを短期間に集中的にまとめコンペに応募するという貴重な体験を得たのではないだろうか。

（2005年度デザインワークショップI幹事・

わたなべとみお・専任講師）



川口ユニット



内田ユニット



渡辺ユニット

第37回 建築学生海外研修旅行報告

ヨーロッパの建築と都市をめぐる旅 —ローマ遺跡から現代建築まで—

今年度の建築学生海外研修旅行で訪れた国は、スペイン・イタリア・オーストリア・チェコ・ドイツ・フランスのヨーロッパ6カ国で、古代ローマ建築の遺跡から最新の現代建築までを訪ねる旅でした。

パリを経由してバルセロナに入り、そこから研修がスタートしました。最初の団体研修となったサグラダファミリア教会を一心に見つめる学生たちの目が非常に印象深かったです。そして、空路でローマに渡り、ヨーロッパ大陸をベルリンまでバスで移動する陸路での長い旅が始まりました。旅の途中では、フィレンツェのウフィッツ美術館やモーツァルト生誕250年を控えて盛り上がるザルツブルグでも研修を行い、建築だけでなく絵画や音楽などの芸術全般に触れてきました。また、グラーツ工科大学を見学した際には、学部長が直々に大学全体の紹介を行ってくれるという嬉しいハプニングにも遭遇しました。旅の中盤を過ぎる頃には、学生たちの間にだいぶ疲れがたまっていたましたが、今ヨーロッパで最も建設活動が盛んであると言われているベルリンで多くの現代建築に接することにより、ゴールを間近にして再び活気が戻ってきたような気がしました。

最後にパリを訪れ、大きな事故もなく2班とも無事に成田空港に戻ってきました。参加した学生たちに、旅行中で最も印象に残った建物などの写真を提出してもらいましたので、そのうちの何点かを抜粋して学生の感想とともに紹介します。(石垣秀典・助手)



- ＜1班＞日 程 2005年8月22日(月)～9月14日(水)
引 率 渡辺富雄専任講師、石垣秀典助手
参加学生 38名(大学院生:男子1名, 3年生:男子23名・女子11名, 2年生:女子3名)
添 乗 員 山本雅美 (JTB)
- ＜2班＞日 程 2005年8月25日(木)～9月17日(土)
引 率 柳田 武専任講師、富田隆太助手
参加学生 36名(3年生:男子23名・女子9名, 2年生:女子4名)
添 乗 員 笠原文子 (JTB)



バルセロナにて(1班)



ザルツブルグにて(2班)

松山大樹（3年） 私がこの旅で特に印象に残ったのはある特定の建築というのではなく、ヨーロッパの街そのものであった。特に印象に残るのは、イタリアのペルージャである。確かに今回の旅の中でめぐった建築たち、サグラダ・ファミリアやロンシャンの教会などは圧倒させるものがあった。それらは建築家たちが建築という造形の行為を意識して作り上げたものである。しかし街はそうではない。名も知られていないような人々、建築家なんてものには程遠い人たちが作り上げたものである。己の住みやすさ使いやすさや、なんとなくの美観のみで作られたのが街である。しかしでき上がり、今も残る街並みはなんともいえない美しさに満ちていた。建築家なしの最上級の建築がそこには確かに存在していた。人間各々が内に秘めたる物作りへの好奇心、美への憧れ、そういったものに触れることができた気がする。



ペルージャの街並み

水野泰延（3年） ヨーロッパ建築研修旅行に行って本当に多くのことを学べたと思います。まず出発前に自由行動のある都市の建築や交通手段などを調べていくことで、実際に現地で調べた内容と実物を比べて感動したり、すこしがっかりしたり、さまざまなことが感じられました。学生のこの時期に24日間ものあいだ、建築以外にもヨーロッパの美術や音楽、町並み、文化などを実際に見聞きして感じることは人生の中でも貴重な経験をさせてもらったと思います。



サン・ピエトロ寺院

澤田 樹（3年） 建築と宗教・政治・権力というものを垣間見た旅でした。また、人々を動かす原動力となるために、芸術や建築が果たした役割、そして実際にそれに突き動かされた人々を感じ取ることができました。特に、さまざまな教会を見ることができたのは私にとっていい経験でした。今まで想像するだけだった空間を実際に体感することは、授業や写真、本などで見るものよりずっとずっと強く残っています。一番印象的な建築というと、「宗教的役割を担った建築」というふうになってしまっていますが、近代以降でいえばミースのバルセロナ・パビリオンでした。本を見たり、図面を写しているだけでは好きではなかったけれど、実際に空間に入ったときに感じた緊張感と親密さは（こういう表現が正しいのか分からないけど）素敵だと思いました。写真で建築を捉えるって難しいんだと、そのとき実感させられました。



バルセロナ・パビリオン

石井 陽（3年） 見たかった個々の建築もさることながら、各国、各街の文化、活気、雰囲気を体験できたことが良かったと思います。少しでも長く見ていたくて、バスの中でもずっと外を眺めていました。木が変わり、土の色が変わり、屋根や煉瓦の色が変わり、一見同じように見える景色も飽きることはありませんでした。



ウィーンの街並み

鳥居有里（3年） 今回私がヨーロッパ研修で一番感じたのは、建物はそれ単体では全ての魅力を発揮しきれないということだ。周りの環境やそこでの人々など、さまざまなものが集結して初めて建物としての最高の魅力が出ると感じた。それを特に感じたのがパリのノートルダム寺院である。私がノートルダム寺院に行ったとき、日曜でミサが行われていた。今回たくさんの教会や寺院を見学してきたのだが、ここにおいては涙が出そうになった。それは他の寺院などとは違い、全ての環境が揃ったときに見学できたからではないかと思う。ミサに訪れた人々が真剣にお祈りをしている、神父さんが話をしていて、音楽が流れていて…そういう周りの環境が建物において必要不可欠であることを学んだ。この研修旅行に参加して、今後建築に携わるうえで一番重要なことを体感して学ぶことができて良かった。



ノートルダム寺院

山中一生（3年） 海外研修において「世界の建築物」というもののスケールの大きさは然り、デザインや視点の違いというようなものを受けた。ある都市は生きた遺跡のようなものであったり、またある都市は近代と古典とが融合したものであったりと、各国や街によって古典建築に対する保存の姿勢の違いが見てとれた。また数十年も前にできた建物とは思えないほどのモダンなデザインの建物や、地震が無いこともあるのか近代建築の多くはデザイン性の高いものが多く、このことが街並みにリズムをつけ街を散歩するだけでも楽しめた。



ドイツ連邦議会議事堂

太田真哉（3年） 今回のヨーロッパ研修旅行で、実際に見て良かったと思った場所は、やはりスペインにあるガウディによる作品でした。中でも、グエル公園が特に気になりました。グエル公園は、グエルがガウディに60戸の住宅街として依頼したものでしたが、住宅はほとんど売れず、後に公園として転用されました。グエル公園で印象に残ったところは、住宅街として設計されていたため、車が通れるように陸橋が造られていたところです。陸橋は、道路の掘削で出た石を使っているため、周囲の自然と調和がとれているように見えました。他にも、中央広場の縁にあるベンチ、広場の下にあるドリス式の列柱やモザイクでできたトカゲの像などが印象的でした。このように、グエル公園には、見所がたくさんありました。



グエル公園

山崎純一（3年） 今回の研修旅行ではたくさんの教会を見学したが、この Dives in Misericordia という教会は、他のどの教会にも似ておらず、独特の雰囲気でもインパクトがあった。日曜の朝に行ったので、教会の中ではミサが行われており、その様子を見学することができた。ミサの音が教会中に響きわたり、感動して鳥肌がたった。もしかしたら、建築よりミサのほうが感動したかもしれない。帰国後、特に印象に残った建築は何か考えてみて、見てきた数々の建築の中でもやっぱりこの教会が一番だと思った。



Dives in Misericordia

立川 亮（3年） 今回の旅行において一番心に残った建築物としていろいろと迷ったあげく、ローマのコロッセオをあげることにした。有名建築を数多く見た中で、なぜコロッセオかという、何かこう強く惹かれるものがあったからである。非常に曖昧な表現ではあるが、当時の人々の興奮が伝わってくるような、まさに歴史に触れた気がしたのである。百聞は一見にしかずというのはまんざら言い過ぎではないと感心した場所であった。しかし、この旅では何も建築だけを見に来たわけではなく、最大の収穫は多文化を体感したということであった。さまざまな国で恥をかいてきたが、旅の恥は掻き捨てであり、勉強になったと痛感している。



コロッセオ

山田聖典（3年） 私の心に一番印象強く残っている建築は、スペインで見た「サグラダ・ファミリア」です。旅行の初日に見たせいもあるかもしれませんが、それでもあの迫力には感動しました。今まで本やテレビなどでしか見たことのなかったものが自分の目の前にある。あのときの興奮は今も忘れられません。宗教的で不気味な感じもありますが、今までガウディの建築にあまり良さを感じていなかった私が、あの建築を見てガウディを好きになりました。私が生きているうちに完成形を見られないのは非常に残念です。でも一番そう思っているのは、ガウディ本人だと思えます。まだ完成していないというのにあれだけ素晴らしいのですから、今後あと何百年かかるとしても最後まで妥協せずに造ってほしいです。



サグラダ・ファミリア

関口あゆ美（3年） ベルリンフィルのコンサートホールの見学は音楽が好きな私にとって、単に建築を見る以上の意味をもっていました。また以前ベルリンフィルのメンバーの演奏を生で聴く機会があったので、初めて訪れる建築ながらも一種の親しみのようなものを感じました。ステージを中心としたすり鉢のような形をしたホールをガイドさんは、この空間においては誰もが音を楽しむことができるという意味を込めて「ファミリーを構成する空間」と呼んでいました。ステージを囲むように客席があるため、奏者の手元を見ることができたりオーケストラ全体を見渡せたりとさまざまな楽しみ方ができる席が用意されたホールでした。いつか音楽を聴くためにもう一度訪れることができたらと思います。



ベルリンフィルハーモニー・コンサートホール

小山 翔（3年） ヨーロッパ研修での一番の目的がこのフンデルトヴァッサーの建築を見ることだった。どこかおとぎの国に迷い込んだように錯覚してしまうようなこの独特な建築はフンデルトヴァッサーハウスといい、彼の思想である「自然との共生」を実現させたフンデルトヴァッサーハウスは旅行に行く前から写真では見ていたが、実際の建築を目の当たりにして衝撃と興奮を覚えずにはいられなかった。もともと画家だったため色の使い方が面白く、赤・青・黄を大胆に使ったファサードにまず目を奪われる。そして直線は悪という極端な考えのため多用される曲線が、普通の建築にはない特別な暖かい印象を受ける。その他にもさまざまな建築を見ることができ、とても有意義な旅行だった。



フンデルトヴァッサーハウス

鈴木彬史（3年） この写真は、紀元前8世紀頃に造られたポンペイの遺跡の大浴場のものです。うす暗い室内に効果的に光が差し込んでいます。渡辺先生がおっしゃっていたようにヨーロッパの建物からは組石造による壁と開口部の戦いの様子を見ることができます。今回のヨーロッパ建築研修旅行では古典建築から現代建築まで幅広く多くの建築物を見ることができました。その全体を通して感じたのは光、採光のデザインのすばらしさです。紀元前8世紀に造られたこの遺跡の円形の開口部から取り入れられた光はとても神秘的な光の筒を地面に向かって落としています。組石造なのでなかなか自由に開口部を開けることが困難だった歴史の中で、効果的に光を用いる術が生み出されていったのだろーうと思いました。



ポンペイの遺跡の大浴場

木幡さくら（3年） 今回の旅行では訪れたそれぞれの国で、さまざまな教会建築を見たことが印象に残っている。日本での生活の中では、訪れることも見ることもない教会建築を見たことは、近代建築を見ることとはまた違う新鮮さがあった。いくつか見た教会の中でも今回の旅行で最初に訪れたバルセロナで見たカテドラルは特に印象に残っている。教会の中に入るとたくさんの人で賑わっていた外の空気が一瞬で消え、代わりにピーンと張り詰めた静かな空気が私を包んだ。人の気持ちやその場の空気を変えてしまう空間のもつ不思議な力を感じた気がした。教会の中で経験した全身に鳥肌が立つ感覚や、自分自身がとても穏やかで神聖な気持ちになっていく不思議な感覚は忘れることができない。



バルセロナ大聖堂

佐藤美里（2年） 上品な建物だ…と思った。ドイツの首都、ベルリンの中心部は日本の銀座のようにデパートや高級ブティックが建ち並んでいる。現代的な建物と古く趣のある建物が混在する中で、ジャン・ヌーベルの「ギャラリー・ラファイエット」はつるんとした曲線のガラス張り、という外観で一際目立っていた。ガラス張りといっても、中が丸見えになっておらず、浮かび上がる程度なので高級デパートの上品さが保たれている。ガラスによる内部の特徴的な大空間は、キラキラと光を反射しながら他の階を幻想的に映し出していた。それを見るとなんだかそのフロアが魅力的に感じ、足を運んでしまふ。商品だけでなく、フロア全体をショーウィンドウに入れたみたいだった。



ギャラリー・ラファイエット

池田真理子（2年） 私が選んだ建築はベルリンにあるバウムシュレーンヴェーク・クレマトリウムです。クレマトリウムとは火葬場のこと。ファサードは無駄な装飾が一切無く、その箱からは神聖な空気が流れていました。そして一番の見せ場となっている内部の抽象の森へ。そこは時の流れが止まったかのような静かな空間で、天井の隙間からの光だけが外の世界との繋がりでした。視界に入るのはコンクリート円柱の森と、まるで木々が開けてしまったかのような天井の穴からの木漏れ日だけ。こんなに贅沢な空間の使い方をしている建築に初めて出会い、今まで感じたことのない幻想的な空間の中にいられたことにとても感動しました。



バウムシュレーンヴェーク・クレマトリウム

2005年度 日本建築学会大会(近畿)

建築学科教室関係者発表論文リスト

○印 発表者

材料施工・防火

1086 高品質再生骨材によるコンクリートリサイクルの環境負荷低減効果 ○内川陽平(日本大大学院)・友澤史紀・立屋敷久志・島 裕和・染谷雅史

1108 木質系箱形断面集成材の力学的性状に関する基礎的研究 ○平野修也(日本大大学院)・清水五郎

1109 竹の集成材化方法とその品質に関する基礎的研究 ○清水五郎(日本大)

1179 高強度コンクリートの表面仕上がり状態に関する実験的研究 その1 実験計画およびフレッシュコンクリートの性状 ○高橋宏樹(ものづくり大)・大塚秀三・中田善久・藤井和俊・穴沢雅明・飛内圭之・清水五郎・毛見虎雄

1180 高強度コンクリートの表面仕上がり状態に関する実験的研究 その2 打込み方法および型枠剥離剤の違いが明度、光沢度および表面気泡に及ぼす影響 ○大塚秀三(日本大大学院)・中田善久・高橋宏樹・藤井和俊・穴沢雅明・飛内圭之・清水五郎・毛見虎雄

1254 遅延剤を用いたコンクリートの凝結特性およびその予測式 その1 実験計画および凝結試験、圧縮強度 ○高田良章(フローリック)・染谷雅史・西 祐宜・友澤史紀

1255 遅延剤を用いたコンクリートの凝結特性およびその予測式 その2 凝結特性の予測式 ○染谷雅史(日本大大学院)・高田良章・西 祐宜・友澤史紀

1299 高韌性セメント複合材料の強度発現および収縮挙動 ○渡部 憲(東海大)・大岡督尚・白都 滋・白井伸明

1482 石炭灰溶融化スラグ有効利用システムの研究 その10 コンクリートの応力一ひずみ特性 ○那須義範(日本大大学院)・友澤史紀・石川嘉崇・染谷雅史

1577 流動化コンクリートおよび普通コンクリートの工学的性質に関する実験的研究 その6 実大試験体の材齢25年までの長期性状 ○嵩 英雄(工学院大)・阿部道彦・玉井孝幸・押田文雄・長谷川拓哉・友澤史紀

構造Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ

20015 高床式建物模型群周囲に発生するスノウドリフトに関する低温風洞実験 ○佐藤寿樹(日本大大学院)・穴戸武志・高橋弘樹・半貫敏夫

20016 2棟並列建物模型周囲のスノウドリフト生成実験 吹雪風洞実験と南極でのフィールド実験との比較 ○穴戸武志(日本大大学院)・佐藤寿樹・高橋弘樹・半貫敏夫

20248 地震動を受ける多層地盤のエネルギー特性入力エネルギーと粘性減衰エネルギーの考察 ○酒匂教明(日本大)・安達俊夫・立岡慎吾・下村修一

20249 建物と地盤の動的相互作用に関するサブストラクチャ仮動の実験 その1 予備解析 ○谷脇紗和(日本大)・安達俊夫・神田 亮

20250 建物と地盤の動的相互作用に関するサブストラクチャ仮動の実験 その2 液状化現象を伴う挙動のシミュレーション ○松原宗佑(日本大)・神田 亮・安達俊夫・志村晃一

20251 廃タイヤチップを利用した振動低減材の開発 その3 フィールド実験 ○彦坂憲和(日本大)・安達俊夫・酒匂教明・舟木 崇

20252 廃タイヤチップを利用した振動低減材の開発 その4 フィールド実験のシミュレーション解析 ○大島快仁(地震工学研究所)・安達俊夫・彦坂憲和

20261 締固め改良地盤の改良範囲と沈下挙動に関する研究 円形せん断土槽を用いた振動台実験 ○倉崎勝則(日本大)・安達俊夫・山田雅一・吉富宏紀・原田健二

20306 改良地盤上に支持された基礎ブロックの起振実験 その4 側面部の減衰効果に着目した実験概要及び材料試験結果 ○下村幸男(日本大短大)・池田能夫・川村政史・秦 一平・石丸辰治

20307 改良地盤上に支持された基礎ブロックの起振実験 その5 予測解析および側面部の減衰効果に着目した起振実験結果 ○三輪晋也(東急建設)・下村幸男・池田能夫・川村政史・石丸辰治

20308 改良地盤上に支持された基礎ブロックの起振実験 その6 起振実験のシミュレーション解析および地震観測 ○池田能夫(大成建設)・下村幸男・川村政史・秦 一平・石丸辰治

20361 小口径鋼管杭を用いた地盤補強工法に関するアンケート調査結果 ○内藤康夫(東海大)・佐藤 隆・山下大蔵・藤井 衛・安達俊夫・塩沢伸明

20367 平成16年新潟県中越地震による小規模建築物の宅地・基礎の被害 その2. T団地の全域調査

○扇谷匠己（日本大大学院）・神田 亮・安達俊夫

20371 平成 16 年新潟県中越地震による小規模建築物の宅地・基礎の被害 その 6. 小千谷市における宅地擁壁および住宅基礎の被害調査 ○佐藤秀人（日本大）・刑部 徹・石井優紘・国司 基・田中賢治・大橋正照・安達俊夫

20372 平成 16 年新潟県中越地震による小規模建築物の宅地・基礎の被害 その 7. 擁壁被害と排水設備 ○平 真人（日本大）・安達俊夫・山田雅一

20375 平成 16 年新潟県中越地震による小規模建築物の宅地・基礎の被害 その 10. 修復 ○須々田幸治（ジオテック）・伊奈 潔・安達俊夫・藤井 衛

20377 セメント系砂質改良土の強度・変形特性 その 9. 排水せん断強度と排水三軸圧縮強度の評価 ○山田雅一（日本大）・安達俊夫

20396 液状化の程度を表す判定指標に関する考察 ○吉富宏紀（不動建設）・安達俊夫・真島正人・伊勢本昇昭・船原英樹

20442 格子状板材で構成された HP ユニットの提案と基本特性に関する研究 ○徳増紘史（横河工事）・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・豊嶋昭彦・樋口 聡

20446 初期曲げを与えた薄板による半剛性吊屋根構造に関する基礎的研究（その 1）基本構造特性と略算設計手法の提案 ○豊田良平（日本大大学院）・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・平野貴紀

20447 初期曲げを与えた薄板による半剛性吊屋根構造に関する基礎的研究（その 2）座屈性状の検討 ○平野貴紀（類設計室）・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・豊田良平

20459 ホルン型張力膜構造の形状決定に関する基礎的研究 ○呉 有紀・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・坂井 初・滝本秀明

20462 レンズ型二重空気膜構造の基本構造特性 その 3 簡易モデルの提案 ○坂本憲太郎（日本大大学院）・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・佐藤裕子

20463 レンズ型二重空気膜構造の基本構造特性 その 4 簡易モデルの動的な基本特性の把握 ○佐藤裕子（中田捷夫研究室）・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・坂本憲太郎

20464 開放型曲面屋根の風応答性状に関する研究 ○黒木雅代（日本大）・黒木二三夫

20478 ストリング式二方向格子ドームの構造特性に関する基礎的研究 その 1 基本モデルにおける構造特性の把握 ○福島孝志（日建設計）・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・千田健二・櫻井優貴

20479 ストリング式二方向格子ドームの構造特性に関する基礎的研究 その 2 アーチとドームにおける構造特性の把握 ○千田健二（日本大大学院）・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・福島孝志・櫻井優貴

20480 ストリング式二方向格子ドームの構造特性に関する基礎的研究 その 3 小規模試験体を用いた実験的検討 ○櫻井優貴（日本大大学院）・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・福島孝志・千田健二

20485 集積型木質吊屋根構造の構造特性に関する研究 その 3 導入 PS 量が自重時形状に及ぼす影響に関する理論的検討 ○長嶋明大（日本大大学院）・斎藤公男・岡田 章・樋口 聡・宮里直也・梅澤由香利

20486 集積型木質吊屋根構造の構造特性に関する研究 その 4 初期形状把握実験および数値解析手法の検討 ○梅澤由香利（オーク構造設計）・斎藤公男・岡田 章・樋口 聡・宮里直也・長嶋明大

20488 Tensegric Truss Type III の平板への適用性に関する基礎的研究 ○堀井智紀（神鋼鋼線工業）・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・清水建吾

20489 張弦シザーズ構造の仮設建築物への適用に関する研究 その 3 人力施工を考慮した形状決定手法の提案及び施工実験について ○門脇一仁（日本大大学院）・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・田中 晃・濱野伸洋

20490 張弦シザーズ構造の仮設建築物への適用に関する研究 その 4 荷重レベルに応じた耐風抵抗機構 ○濱野伸洋（鹿島建設）・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・田中 晃・門脇一仁

21176 非線形粘性ダンパーとバイリニア型弾塑性ダンパーを併合した系の応答性能図表に関する研究 その 1. エネルギースペクトルによる変数分離 ○秦 一平（日本大）・石丸辰治・三澤綾子・長谷川 純・石井剛士・北村尚久

21177 非線形粘性ダンパーとバイリニア型弾塑性ダンパーを併合した系の応答性能図表に関する研究 その 2. 応答性能図表(1) ○石井剛士（日本大大学院）・秦 一平・石丸辰治・三澤綾子・長谷川 純・北村尚久

21178 非線形粘性ダンパーとバイリニア型弾塑性ダンパーを併合した系の応答性能図表に関する研究 その 3. 応答性能図表(2) ○長谷川 純（日本大大学院）・秦 一平・石丸辰治・三澤綾子・石井剛士・北村尚久

21179 非線形粘性ダンパーとバイリニア型弾塑性ダンパーを併合した系の応答性能図表に関する研究 その 4. 性能設計例と精度検証について ○北村尚久（日本大大学院）・秦 一平・石丸辰治・三澤綾子・長谷川 純・石井剛士

21470 Maxwell モデルを含む制震構造物の動特性

に関する研究 その1 1 質点粘性減衰系モデルの動特性 ○藤田和典 (竹中工務店)・石垣秀典・石丸辰治

21471 Maxwell モデルを含む制震構造物の動特性に関する研究 その2 多質点粘性減衰系モデルの動特性 ○牛坂伸也 (日本大大学院)・石垣秀典・石丸辰治

21476 弾塑性ダンパーを用いた増幅機構型制震装置の履歴特性 その1 非線形性による履歴形状の変化 ○倉形純一 (日本大大学院)・石丸辰治・石垣秀典・山中祐一・宮島洋平・牛坂伸也

21477 弾塑性ダンパーを用いた増幅機構型制震装置の履歴特性 その2 ダンパーシステム剛性比の検討 ○山中祐一 (日本大)・石丸辰治・石垣秀典・宮島洋平・倉形純一・牛坂伸也

22326 露出型鉄骨柱脚の履歴特性に関する実験的研究 その3 ベースプレート降伏先行型の実験式 ○柳田佳伸 (日本大)・半貫敏夫・秋山 宏

22423 実大鋼構造柱梁接合部の延性破壊—脆性破壊遷移実験 その1 実験方法 ○岩佐州紘 (鴻池組)・新井佑一郎・半貫敏夫・秋山 宏・山田 哲

22424 実大鋼構造柱梁接合部の延性破壊—脆性破壊遷移実験 その2 実験結果 ○新井佑一郎 (鴻池組)・岩佐州紘・半貫敏夫・秋山 宏・山田 哲

22474 鋼構造梁降伏型多層骨組における基準損傷分布則 ○小久保 彰 (日本大)・半貫敏夫・秋山 宏

23008 廃棄物の基本物性と構造物への適用性評価に関する研究 その1 細骨材との内割置換 TypeV ○佐藤眞介 (商報舎)・岡村武士・岩田成子

23009 廃棄物の基本物性と構造物への適用性評価に関する研究 その2 複合材の特性と内部機構 TypeV ○岩田成子 (日本大)・岡村武士・佐藤眞介

23030 ひび割れ幅計測結果に基づく RC 梁部材の損傷評価に関する研究 その1 ひび割れ幅計測時の画像処理に関する検討 ○杉 太地 (日本大大学院)・中村隆大・田嶋和樹・白井伸明

23031 ひび割れ幅計測結果に基づく RC 梁部材の損傷評価に関する研究 その2 コンクリート強度が部材の破壊性状に及ぼす影響 ○中村隆大 (日本大大学院)・杉 太地・田嶋和樹・白井伸明

23174 鉄筋コンクリート造有孔梁の破壊挙動に関する解析的研究 (その3) 回転モデルによる検討 ○五十嵐一洋 (日本大大学院)・渡部 憲・白都 滋・田嶋和樹・白井伸明

23175 制震ブレースが取り付く RC バルコニーの補修・補強を考慮した3次元FEM解析 その1 界面付着特性を考慮した予備解析 ○藤城好将 (日本大大学院)・

惟 義英・横内 基・北嶋圭二・田嶋和樹・白井伸明

23176 制震ブレースが取り付く RC バルコニーの補修・補強を考慮した3次元FEM解析 その2 段階解析による補修・補強後の性能確認 ○惟 義英 (日本大大学院)・藤城好将・横内 基・北嶋圭二・田嶋和樹・白井伸明

23177 コンクリートのひび割れ幅の数値解析評価 その1 粗骨材分布がひび割れ幅に及ぼす影響 ○河村 準 (日本大大学院)・田嶋和樹・白井伸明

23178 コンクリートのひび割れ幅の数値解析評価 その2 要素代表長さがひび割れ幅に及ぼす影響 ○田嶋和樹 (日本大)・河村 準・中村隆大・白井伸明

23179 載荷経路が異なる RC 造ボックス型耐震壁の非線形挙動に関する3次元FEM解析 ○尾崎龍太郎 (日本大大学院)・田嶋和樹・白井伸明・鳥田晴彦

23262 外付け制震ブレース外端部の取付性能に関する研究 その3 非線形FEM解析による性能評価 ○横内 基 (青木あすなろ建設技研)・上田英明・北嶋圭二・築井英昭・白井伸明・安達 洋

環境工学 I, II

40001 集合住宅の遮音性能に対する居住者要求と住宅性能表示制度 ○阿部今日子 (日本 ERI)・井上勝夫

40005 乾式二重床の重量床衝撃音レベル発生系の検討 ○阿部恭子 (建材試験センター)・井上勝夫・安岡正人

40020 乾式二重床の剛性変化及び設置場所の変化が床衝撃音に与える影響 ○柳沼勝夫 (日本大大学院)・井上勝夫・富田隆太・中澤真司・佐藤伸俊

40029 床構造変化時の木質系フローリングの変位量と感覚評価について 高齢者歩行時の住宅床に関する研究: その6 ○渡部和良 (旭化成ホームズ)・井上勝夫・富田隆太

40068 ホール音場における Sound StrengthG とラウドネスの関係 ○渡部真己 (日本大)・星 和磨・羽入敏樹・関口克明

40071 室内音場における初期及び後期反射音による音に包まれた感じ ○小林方美 (日本大)・星 和磨・羽入敏樹・関口克明

40074 屋外空間における演奏者周りの音響効果が演奏者に与える影響 ○菅沼太郎 (日本大大学院)・橋本修・井上勝夫

40075 電気音響拡声時の音響調整に用いる目標特性についての主観的考察 建築音響特性と使用用途を考慮した電気音響調整法についての研究 ○山口琢二 (日本大大学院)・橋本 修・井上勝夫・大澤邦昭

40077 高齢者の平均聴力レベル算出法についての検討 ノイズ音場における高齢者の聴力レベルと音声聴取評価との関係 その1 ○山崎大輔(奥村組)・橋本 修・小林秀彰・井上勝夫

40078 ノイズ音場における高齢者の平均聴力レベルと単語理解度評価の対応 ノイズ音場における高齢者の聴力レベルと音声聴取評価との関係 その2 ○橋本修(日本大)・山崎大輔・小林秀彰・井上勝夫

40079 複数の指向性マイクロホンの方向別感度差を利用した音源方向推定に関する基礎的検討 ○藤門祐介(日本大)・星 和磨・羽入敏樹・関口克明

40122 建築物の振動に関する居住性能評価指針の測定方法について(2) ～床振動に関する実測事例からの検討(2)～ ○平松和嗣(NTT ファシリティーズ)・横島潤紀・石橋敏久・伊積康彦・富田隆太

40173 視覚表示の周辺環境を考慮した情報取得に関する研究 ○加納基喜(日本大大学院)・加藤未佳・関口克明

40179 光の印象評価要因に関する研究 Cuttle のベクトルスカラー比と光の印象(明るさ感・やわらかさ・強さ)との関係 ○木村真由子(日本大大学院)・加藤未佳・関口克明

40180 光の印象評価要因に関する研究 「光のやわらかさ」を感じる影の状態 ○加藤未佳(日本大)・木村真由子・関口克明

40417 身体障害者の温熱環境に関する研究 XV 頸髄損傷者の温熱環境に対する意識・実態調査 ○三上功生(日本大大学院)・青木和夫・蜂巢浩生

40545 建物内における規格別無線 LAN 通信性能に関する測定例 ○高野洋一(パナホーム)・井上勝夫

40550 スリット状接続構造の電磁シールド性能基準化に関する実験的検討 その5 重ね合わせ接続モデルによる検討 ○吉野涼二(大成建設)・井上勝夫・三枝健二

41053 中国都市住宅における設備と室内温熱空気環境に関する実態調査 その10 中国9都市におけるアンケートと実測調査のまとめ ○田中 渚(東北大)・吉野 博・吉野泰子・張 晴原・持田 灯・李 振海・宮坂拓之

41054 中国都市住宅における設備と室内温熱空気環境に関する実態調査 その11 暖冷房負荷の地域性に関する検討 ○吉野 博(東北大)・吉野泰子・張 晴原・持田 灯・李 振海・宮坂拓之

41055 ウルムチにおける集合住宅の温熱環境と快適性に関する検討(夏季) ○王 岩(日本大)・吉野泰子・吉野 博・張 晴原・李 振海・宮坂拓之

41076 居住スタイルを考慮した高齢者の冬季住宅温熱環境の実態と今後の課題 ○松崎温子(日本大)・吉野泰子・関口克明

41270 中国伝統民居客家土楼をシミュレーションモデルとした風環境の適応技術に関する検討 ○吉野泰子(日本大短大)・三森貴嗣・関口克明・王 岩

41282 ソーラーチムニーを主体とする環境配慮型大学校舎の自然換気に関する研究 その1 環境配慮型大学校舎の省エネルギー計画の概要 ○吉原和正(日本設計)・早川 眞・大野二郎・佐藤昌之・永田修三・上野祐行

41283 ソーラーチムニーを主体とする環境配慮型大学校舎の自然換気に関する研究 その2 測定方法及びトレーサーガスによる換気量, 換気経路の把握 ○樋渡 潔(大成建設)・早川 眞・吉原和正・永田修三・上野裕行・前坂彰子

41284 ソーラーチムニーを主体とする環境配慮型大学校舎の自然換気に関する研究 その3 トレーサーガスをを用いた換気量評価と省エネルギー効果 ○前坂彰子(日本大)・早川 眞・吉原和正・樋渡 潔・永田修三・上野祐行

41342 高層建築の自然換気のための壁面風圧均等化の実験 ○早川 眞(日本大)・坪山北斗・前坂彰子

41508 混合・置換切替え空調方式をもつ講堂の換気特性 その3 混合・置換空調連続運転における居住環境アンケート調査結果 ○坪山北斗(日本大)・早川 眞・山岡 琢・鳥越順之

建築計画 I, II

5023 オープンプラン型教室における隣室の発生源の評価と遮音性能の改善に関する検討 オープンプラン型小学校の音環境に関する研究:その6 ○貝瀬智昭(日本大大学院)・井上勝夫・富田隆太・笠井 雄・松本久美

5024 可動壁設置によるオープンプラン型教室の空間印象評価に関する検討 オープンプラン型小学校の音環境に関する研究:その7 ○笠井 雄(旭化成ホームズ)・井上勝夫・富田隆太・貝瀬智昭

5101 水治療法施設計画と室面積との関係に関する研究 水治療法施設の計画に関する研究 その1 ○木下晃一(日本大)・野村 歡・八藤後 猛・三浦康太郎

5102 医療施設における水治療法機器の設置および使用状況に関する研究 水治療法施設の計画に関する研究 その2 ○八藤後 猛(日本大)・木下晃一・野村 歡・三浦康太郎

5103 医療施設における訓練用プールの設置状況に関する研究 水治療法施設の計画に関する研究 その3 ○三浦康太郎(日本大)・木下晃一・野村 歡・八藤後 猛

5114 高度医療受療のための患者家族宿泊施設の現状と建築計画に関する研究 ○古谷聡子(日本大)・八藤後 猛・野村 歡

5433 災害時における高齢者、障害者の対応とニーズに関する研究 日常生活において発生頻度の低い事象への対応とニーズに関する研究 その1 ○平山清美(日本大)・高橋拓行・八藤後 猛・野村 歡

5434 高齢者、障害者の非日常時に対応可能なまちづくりに関する研究 日常生活において発生頻度の低い事象への対応とニーズに関する研究 その2 ○高橋拓行(日本大)・平山清美・八藤後 猛・野村 歡

5471 ハートビル法の対象建築物の範囲や義務化等の適切性のアンケート調査結果について 高齢者及び障害者の建築物の障壁に関する研究(その1) ○山城 亘(日本大)・野村 歡・八藤後 猛・橋本彼路子

5472 ハートビル法の特定施設の基準等に関する研究 高齢者及び障害者の建築物の障壁に関する研究 その2 ○橋本彼路子(日本大)・野村 歡・八藤後 猛

5473 聴覚障害の建築物における障壁に関する研究 高齢者及び障害者の建築物の障壁に関する研究(その3) ○齋藤芽衣(コムスン)・野村 歡・八藤後 猛・橋本彼路子

5242 大規模公共体育施設の利用特性に関する研究 横浜文化体育館におけるアリーナ利用の分析より ○矢野裕芳(日本大大学院)・若色峰郎

5522 小津映画にみられる空間シーンの構成に関する研究 その1 「お早よう」における住宅の空間シーン ○田口徹也(日本大)・宇杉和夫

5523 小津映画にみられる空間シーンの構成に関する研究 その2 「秋日和」における住宅周辺の空間シーン ○宇杉和夫(日本大)・田口徹也

5667 非血縁者同士の住まいにおける共用リビングの空間構成と居住者意識について ○山田明里(日本大)

5702 草加松原団地の住棟景観の保全と原風景再生に関する検討 ○蔡 東祥(日本大)・宇杉和夫・伊藤博昭

5807 在宅医療を支える住環境整備に関する一考察 医療的立場からの調査 ○長島 梢(日本大)・八藤後 猛・野村 歡

5808 行為分析からみたがんの終末期患者のすまいに関する事例的研究 在宅療養環境に関する研究 その4 ○山本和恵(東北文化学園大)・寺島美樹・亀屋恵三子

5809 介助犬・聴導犬の使用者および補助犬の住環境に関する研究 補助犬使用者および補助犬の住環境に関する研究 その2 ○田中 賢(日本福祉大)・八藤後 猛・野村 歡

都市計画

7088 眺望景観に対する評価に関する研究 景観訴訟の事例を中心にて ○中島祐介(日本大)・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

7113 都市空間軸・眺望点と山景観に関する研究 駿府城下町の環境と天守閣・道路からの山景観 ○伊藤博昭(日本大)・宇杉和夫

7241 既成市街地(商業地)整備と資産価値上昇に関する基礎的研究 ○遠藤広正(日本大)・根上彰生

7272 総合設計制度の許可基準に関する研究 政令指定都市、中核市、東京都23区における比較分析を通して ○菊池 通(日本大)・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

7476 公共施設づくりにおける初動期の住民参加プログラムに関する研究(その1) 川崎市麻生区の住民団体を対象として ○齋藤真理(日本大)・徳江明宏・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

7477 公共施設づくりにおける初動期の住民参加プログラムに関する研究(その2) 川崎市麻生区の住民団体の活動から得られたプログラム(案) ○徳江明宏(日本大)・齋藤真理・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

建築経済・住宅問題

8006 J-REITが保有する東京都区部のオフィスビルに関する分析 ○内田輝明(日本大大学院)・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

8096 小学生の住環境意識に関するアンケート調査結果 ○金子幸代(日本大)・吉野泰子・関口克明

建築歴史・意匠

9167 新宿駅西口広場および地下駐車場(1966)の設計経緯について ○加藤明日香(デザインショップ・アーキテクト)・大川三雄

9192 ミーソン遺跡における遺構の傾斜に関する地盤工学的検討 ○茶谷文雄(大林組)・大山亜紀子・重枝 豊・安達俊夫

9276 チェコスロヴァキア工作連盟によるジードルンク「パパ」の計画経緯と概要 — 1920～30年代初頭における工作連盟のジードルンクについて その5— ○田所辰之助

9277 ミースとル・コルビュジェによる「原型システム」の形而上的用法に関する研究 ○佐藤 良(日本大大学院)

2005年 関西研修旅行



奈良東大寺前 南大門前で先生のお話を伺っている



慈光院 お茶をいただきながら係の方に沿革を伺っている

建築史建築論研究室では毎年2月下旬に関西研修旅行を実施しており、50名前後の学部生の方が参加されます。4泊5日で関西方面の建築を見学するのですが、単なる観光旅行ではありません。

実際に建築を目の前にしながら、一つ一つ先生が解説していただきます。もちろん質問もOKです。建築見学をしているときに、何でも答えてくださる先生方が傍にいる機会はなかなかありません。自分たちだけの旅行で建築を見ても発見できなかったことや、新しい視点が見つかります。

また、学校行事として行うので、普段は立ち入れない場所も見学することができます（去年は京都の久昌院など）。見学先は年ごとによって少しずつ変わるので、一度だけでなく何回か参加される方もいらっしゃると思います。

2005年は2月18日（金）～22日（火）の日程で寺院建築や茶室などの伝統的な建築をまわりつつ、近代建築も見学先に組み込んでいきました。概要は次の通りです。

《見学先》

- 1日目 東大寺—南大門・大仏殿・二月堂・三月堂
唐招提寺—金堂修復現場（一般立入不可）
- 2日目 法隆寺—金堂・五重塔・夢殿 etc.
慈光院—茶室・書院・庭園
平等院—鳳凰堂・浄土庭園・鳳翔
- 3日目 大徳寺—玉林院修復現場（一般立入不可）
建仁寺—久昌院（一般立入不可）
- 4日目 国立京都国際会館、宝ヶ池プリンスホテル、
曼殊院、詩仙堂、佳水園（宿泊先）
- 5日目 綿業会館、
甲子園ホテル（現 武庫川学院甲子園）、
山邑邸（現 ヨドコウ迎賓館）

これらの見学先の他にも、外観見学のみの建築もいくつかあり、中には入れませんでしたが、外から先生が解説を加えていただく場面もあり、実りのある研修旅行になったのではないかと思います。

（幹事代表・伊藤真理・片桐研M2）

文化財保存修理事業の現場

高木愛子（4年）

今回の研修旅行で最も楽しみにしていたのが、唐招提寺と、玉林院本堂および附玄関の保存修理現場の見学であった。1日目の唐招提寺は5年前高校の修学旅行で訪れた際に、調査のために見学できなかったように記憶しており、この事業がいかに長期的であるかが偲ばれた。金堂を囲うようにしっかりと建てられた、高さ25mにも及ぶ巨大なプレハブ小屋の中で作業は行われている。なるほどこれならば天候に左右することなく、予定通りに作業を進めることができる。建物の中では金堂の解体が完全に終了していて、基礎がむき出しとなり側面の8本の柱のみが建ち上がっているという、とても珍しい光景が広がっていた。これほど大掛かりな建物となると、柱を建てるのにクレーンが用いられるというが、創建当時の人々は全て自分たちの力で作業していたのだから驚きである。また上の部分で左右の柱と繋がれているとはいえ、あの巨大な柱がよく倒れずに建っているものだと感心してしまう。現場には普段では絶対に目の前で見ることでできない斗や虹梁などの部材が並べられていた。それまでとても細かいものだと感じていた部材のあまりの大きさに建物全体の巨大さを改めて実感させられた。

玉林院の事業は唐招提寺と比べれば小規模のものであるが、とても興味深いものであった。ここでも素屋根の下で作業が行われていたが、その構造にはプレハブではなく伝統的な丸太組という手法が用いられている。丸太と針金（昔は縄）のみで修復する建物よりも大きな小屋を作ってしまうのだからすごい技術である。この丸太組の技術自体が保存の対象であるという。こうした保存修理事業は歴史的建造物そのものだけでなく、その建築に用いられていたさまざまな技術を後世に伝える絶好の機会にもなっていること痛感した。玉林院は半解体の状態で修復がなされており、垂木がむき出しになった屋根を間近で見られるなど唐招提寺とは一味違った迫力であった。今回の保存修理ではできるだけ再建当初の姿に戻そうだ。唐招提寺を含め完成したら是非見に行きたいと思っている。



大徳寺玉林院修復現場（京都） 関西大学の永井 規男先生に解説していただいている



宿泊 佳水園（京都） 佳水園のスイートから見た佳水園の屋根伏（ほぼ全景）

関西研修旅行 2005

佐藤 充広（4年）

前回の関西研修旅行で弧蓬庵や京町屋、愛珠幼稚園など、大変印象に残るものをたくさん見ることができ、とても自分自身にとってプラスになったと思ったので2年連続で参加させてもらいました。まず参加2年目だということを感じ取ることができたのは、唐招提寺の金堂修復現場でした。1年前は須弥壇の発掘作業中でそれによって三像がどのように並べられたのかを知ることができました。今回修復作業の場所に来ると柱が立っていました。続けて参加したため見ることに変化がありました。自分は前回、大工道具を扱う大工さんの巧みな技術を見ましたが、今回も大工さんの作った模型を見てもすごい技術だと思いました。他にもなかなか見ることのできない代物を見ることができました。大徳寺玉林院の修復工事では建物を覆う形で作られた足場を見ました。技術の保存ということで、足場は木でつくられていました。かなり大きなスパンなので、少したわんではいますがしっかりとした足場でした。木で作られているため、作業の邪魔になったりしたとき、切ってしまっても必要になれば付け加えることのできるすぐれた足場に感動しました。後半は近代以降の建築になるのですが、近代建築で印象に残ったのは山邑邸でした。芦屋山手の小高い丘の急勾配に建っている建築で、存在感はあるのですが、自然とかみ合っている印象を受けました。幾何学的なもので構成された建築なのですがその中には自然の中に潜まれた力のような印象を受けました。

自分は伊勢や、伊賀上野の伊東忠太の俳聖殿を見て奈良の現地集合にあわせ、芦屋の解散の後は神戸を見ました。自分なりの旅と組み合わせることでも面白い旅が生まれるのではないかと思います。また普段自分一人で旅をしてみてもなかなか見ることのできない特別なものをも体験できた旅でした。

関西研修旅行における所感

澤田 樹（3年）

関西研修旅行は、毎年大筋は同じではあるものの、歴

研の院生数名が幹事を行うので個性や特徴などがあって面白い。1年次に参加したときはまさに関西建築の王道を見て歩く旅行だった。奈良・京都の古建築、京都の町屋、大阪の近代建築などである。しかも、雪見障子で有名な大徳寺の国宝茶室、忘筌などを見学し、佳水園に宿泊した。まだ歴史を勉強していない1年生でも先生や院生に質問すれば答えてくれ、余計に興味をそそられた覚えがある。2年次に参加したときは、DOCOMOMO JAPANを意識した構成で、神戸まで足を伸ばした。この頃には建築史の授業も受けていて、1年のときに感じた疑問が、実物を見て理解できる喜びを感じ、やはり人間にとって一番は体感だということを知った。

普段、教科書や雑誌、ネットなどで興味をもったモノがあったとすれば、それはできる範囲で見に行くべきだ。それは建築に限ったことではなく、全てに共通すると関西建築旅行で学んだ。どんなことも見て損になるものはない。旅行を2回経験し、一番良かったのはそれを自分の身をもって感じられたことにあると思う。

「関西研修旅行」感想

齊藤 裕子（3年）

今回初めて参加した「関西研修旅行」。実物の建築物を見ながら、大川先生や重枝先生の講義を聞くことができるのは貴重な体験だった。寺院から近代建築までを一気に見てまわったが、中でも建物と庭園の関係に感動した。特に寺院と日本庭園は、建築物の中から庭園を見ることが根底にある。座敷に座って臨む庭園には、砂の模様や木の枝、岩、葉の緑色などが最も美しい形で存在していた。曼殊院の庭は白砂と緑のコントラストが絶妙だった。写真で見るとよりもずっと色が映えていて、何時間でもそこに居たいと思わせてくれた。旅行後半では近代建築が主だったが、最後に実際に近代建築の巨匠が設計した旅館「佳水園」に宿泊できたことは非常に嬉しかった。自然を利用して設計された佳水園は所々に設計者自身のこだわりが表現されていた。講義や写真だけで知るのはなく、実際に自分で建築物の雰囲気を経験することによって、より一層理解することができたと思う。

オリエンテーション報告

橋本 修

6月18日(土)に、建築学科2年生を対象としたオリエンテーションが実施されました。この企画は、関東近郊の建築施設の見学を通して、皆さんに建築を専門的な視点から勉強してもらい、また教員との親睦を深めることを目的に行われている恒例行事です。今年企画されたコースは右に示す8コースでした。A～Fコースは貸切りバスを利用し、GとHコースは公共交通機関を使って移動をしました。これらの見学コースは、全て先生方によるオリジナル企画で、見学先は、最近話題の建築から、美術館、研究棟、アリーナ、さらに都市計画・防災にいたるまで多彩なメニューとなりました。参加した皆さんは、普段の授業とは違ったリラックスした環境の中で先生方の個性や建築に対する熱意を間近に感じることができ、また先輩たちとのコミュニケーションがはかれるよい機会になったと思います。

見学会では、説明を興味深く聞き積極的に質問をしている人や、カメラに映像をおさめることに夢中になっている人、また、はじめて耳にする専門用語に戸惑っている人などさまざまなようでしたが、実際の空間体験を通して建築と接することによって、新たな印象や関心をもたれたのではないのでしょうか。今回の見学で、設計者の意図や実際の使われ方、また建築技術や施工における苦労話などを見聞き、「建築を考え・つくる」ことの面白さと難しさの一端を感じたことを、今後の勉強に役立ててもらいたいと思います。

(2年クラス担任・はしもとおさむ・助教授)

Aコース『最新建築を群馬に見に行こう』 ぐんま昆虫の森、富弘美術館、鬼石町多目的ホール ◎本杉省三、宇杉和夫、佐藤慎也、大西正紀
Bコース『神奈川の陶芸館と美術館を訪ねる』 有田陶芸倶楽部、神奈川県立近代美術館／葉山 ◎若色峰郎、重枝 豊、渡辺富雄
Cコース『新緑の箱根美術館と横浜散策』 箱根仙石原ポーラ美術館、横浜港大さん橋国際客船ターミナル、赤レンガ倉庫 ◎野村 歡、八藤後 猛
Dコース『梅雨の上州路』 ぐんま昆虫の森、富弘美術館、所沢市民体育館、埼玉スーパーアリーナ ◎斎藤公男、岡田 章、大川三雄、宮里直也
Eコース『建築の環境と技術を「体感」しよう!』 理化学研究所研究棟、国立保健医療科学院、高速道路の人工地盤上に建つ集合住宅群 ◎井上勝夫、半貫敏夫、橋本 修、冨田隆太
Fコース『横浜みなとみらい21地区の街づくり』 地区内の公共建築、商業建築、アーバンデザインの見学 ◎根上彰生、三橋博巳、柳田 武
Gコース『環境設備 エコシステムの見学…』 東京ガス環境・エネルギー館、みなと未来あるいは大栈橋 ◎早川 眞、関口克明、
Hコース『都市防災を考える…下町散策』 平井住宅展示場、本所防災館、江戸東京博物館 ◎安達俊夫、白井伸明、清水五郎、友澤史紀、山田雅一、田嶋和樹、酒匂教明



理化学研究所研究棟の説明を聞く (E コース)



ポーラ美術館にて昼食 (C コース)



ぐんま昆虫の森 見学の様子 (D コース)

オープンキャンパス報告

田嶋和樹



模型を覗き込む高校生



熱中する高校生

皆さんが高校生の頃、大学の情報をどのように入手していたでしょうか。私が高校生の頃は、大学案内のパンフレットから大学の情報を入手する程度でした。ちなみに、現在のように誰もがインターネットから簡単に情報が得られる時代とは違います。ですから、少なくとも私にとって大学は未知の世界でした。しかし、このような状況はもう過去の話です。今や受験生が大学選びのための情報を得る手段は多種多様です。ここ数年では特に、各大学が盛んにオープンキャンパスを開催しています。オープンキャンパスでは、キャンパスツアーや模擬授業、在校生や入試スタッフによる個別相談など、大学をより詳しく知ってもらうためのさまざまなプログラムが用意されています。

もちろん、理工学部でもオープンキャンパスを積極的に開催しています。1998年度からスタートして8回目となる本年度は、『「聞く・見る・知る」最強の3日間』と題して、「CST 駿河台入試フォーラム」「CST オープンキャンパス」そして「船橋キャンパスウォッチング」という3つのイベントが計画されました。すでに入試フォーラムとオープンキャンパスは開催されましたが、両イベントとも多くの高校生が来場し、大盛況のうちに幕を閉じました。今回はこれら2つのイベントにおける建築学科の活動について報告します。

7月23日(土)に開催された「CST 駿河台入試フォーラム」では、建築学科の特徴を学科オリエンテーションとミニ講義を通じて高校生にわかりやすく伝えなければなりません。建築学科では、学科オリエンテーションを片桐正夫先生が担当し、建築学科で学ぶ意義や教育内容について説明しました。また、ミニ講義では大川三雄先生が「建築家とは何か」、清水五郎先生が「建築を支える技術」というテーマを設定して高校生に講義を行いました。高校生にとって建築物は身近な存在であると思います。しかし、それを設計する建築家やその他建築に関わる技術者の活動については、なかなか知る機会がないのではないのでしょうか。今回、大川先生と清水先生が設定されたテーマに対する注目度は高く、ミニ講義の会場には多くの高校生が集まりました。さまざまなスライド

や写真を用いた講義内容も大変わかりやすく、多くの参加者の印象に残ったことと思います。

一方、7月31日(日)に開催された「CST オープンキャンパス」も、入試フォーラム同様大変な盛り上がりを見せました。オープンキャンパスでは、建築の世界におけるモノづくりの楽しさをミニ講義と学科紹介プログラムを通じて知ってもらう必要があります。建築学科のミニ講義では、白井伸明先生が「建築構造物に見る技術者の知恵」と題して、建築構造物の技術史に秘められた技術者の知恵の数々を紹介しました。また、宇於崎勝也先生が「都市計画の誕生—産業革命に対処した技術—」と題し、産業革命に起因する公害の発生を契機として都市計画が誕生した当時の様子を説明しました。ミニ講義は立ち見が出るほど盛況であり、高校生が建築の奥深さに触れる好機となったと思います。また、学科紹介プログラムでは岡田章先生がペーパーストラクチャーの作成、佐藤慎也先生がペーパークラフトの作成および田嶋がコンクリート体験を企画しました。各研究室の多大な協力があつたおかげで、多くの高校生に建築のモノづくりに触れてもらうことができました。夢中に作業をする高校生の姿はとても印象に残っています。その他、建築模型や研究室紹介パネルの展示などもあり、最後の最後まで建築学科のブースは大盛況でした。

最後になりますが、オープンキャンパス関連イベントを成功させるためには、多くの教職員ならびに学生の協力が不可欠であります。ご協力いただきました皆様に深く感謝いたします。
(たじまかずき・助手)



大盛況のミニ講義

■小嶋勝衛理工学部長は9月1日付で日本大学総長に任命された。また、10月1日、「第11代日本大学総長就任『小嶋勝衛先生を励ます会』」（主催：理工学部校友会、桜門建築会）が建築学科教員・学生の協力のもとで開催された。新高輪プリンスホテル飛天の間に参加者1,100名が集まり、江戸消防記念会神田駿河台氏子による木遣りの先導で入場された小嶋総長に玉井日出夫文部科学省大臣官房長の祝辞を始め、多くの祝辞、励ましが贈られた。



『小嶋勝衛先生を励ます会』

■白井伸明教授は10月1日付で建築学科教室主任に任命された。

■小石川正男短大教授は9月1日付で短期大学部（船橋校舎）次長に任命された。

■佐藤慎也助手、本杉省三教授連名の原著論文「地域文化団体の創造活動における公共ホールの利用に関する研究 長岡リリックホールを事例として」が、日本建築学会計画系論文集N0.593(2005年7月号)に掲載された。また、佐藤慎也助手の原著論文「公共ホールに併設される練習室の利用に関する研究」が、文化経済学会19号（2005年9月、文化経済学会〈日本〉）に掲載された。

■阿部今日子氏（'04年修了）、井上勝夫教授連名の原著論文「音環境に関する集合住宅購入時の消費者要求と住宅供給者の説明」が、日本建築学会環境

教室ぶろむなーど

系論文集 No.595（2005年9月号）に掲載された。

■今村雅樹教授は、韓国で行われた国際コンペ「Revitalization of Gwangbok Street & PIFF Plaza」において、第3等に入賞し、実施設計者選定のための2段階目に応募する権利を得た。このコンペは、韓国の釜山市内にある釜山国際映画祭で有名なPIFF広場とグワンボック通りに提案を行うというもの。応募作品の詳細については次号掲載予定。

■田所辰之助短大専任講師は、9月24、25日に神戸大学で行われた国際シンポジウム「日独百年の建築・都市計画における相互交流 [Dreams of the Other—彼岸の夢] 一桂、バウハウス、ブルーノ・タウトから新しいエコロジーへ」（主催：神戸大学、ベルリン日独センター）において、講演「日本、イギリス、そしてドイツへの帰還—ヘルマン・ムテジウスの“バウクンスト”をめぐる—」を行うとともに、パネル・ディスカッション「近代建築運動における日独交流」にパネラーとして参加した。

■9月11日～30日に、西安建築科技大学・劉加平教授、商洛師範専科学校長・張継良教授ら6名が客員研究員として短大建設学科を来訪した。期間中、国際人間—生活環境系会議での発表や、船橋市長との会見、公開市民大学での講演などが行われた。

■「第26回 NU 建築フォーラム」が、10月12日にCSTホールで開催された。「身体から都市へ 光のフィルターを通して」をテーマに、迫慶一郎氏による中国で実現した最近作、角館政英氏

による照明デザインを行った作品について、それぞれ講演が行われた。続いて、両氏とモデレータの今村雅樹教授により、パネル・ディスカッションが行われた。

■第13回「習志野ドーム」が、11月2日～7日に行われた。創られた作品は、コンペに参加した15作品から選ばれた6作品（審査員：斎藤公男教授、岡田章助教授、佐藤慎也助手、多田脩二氏（'95年修了））に加えて、避難施設として提案されたトリプルバルーンとパイオ・ストラクチャー（愛・地球博の休憩所）の計8作品。秋晴れの下、学部・大学院の学生、他大学（関東学院など）の学生約150名の手により、8時間で無事完成した。



会場入り口のモニュメント



作業風景



上空から会場を見下ろす

●駿建目次

(2005.11 Vol.33 No.3 通巻135号)

表紙「愛・地球博 2005 休憩所」

設計・施工：空間構造デザイン研究室

撮影：空間構造デザイン研究室

SUPER JURY 2005

夏期集中講義 デザインワークショップ I

第37回 建築学生海外研修旅行報告

2005年度 日本建築学会大会(近畿)

建築学科教室関係者発表論文リスト

2

4

6

11

2005年 関西研修旅行

オリエンテーション報告

オープンキャンパス報告

教室ぶろむなーど

16

18

19

20